

令和7年度(2025年度)

病害虫発生予察情報 第23号

特殊報第1号

北海道病害虫防除所 令和7年(2025年)12月24日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

ブロッコリーの黒すす病における SDHI 剤耐性菌の発生について

発生確認作物:ブロッコリー(*Brassica oleracea* var. *italica*)

病害虫名:ブロッコリー黒すす病

病原菌名:*Alternaria brassiciola*

近年、ブロッコリーにおいてSDHI剤を用いて防除を行っても黒すす病の発生が認められる事例が発生しており、令和7年に道外で耐性菌の発生が確認された。また、道内でも一部地域で感受性の低下が報告されたことから、北海道立総合研究機構農業試験場において薬剤に対する感受性検定を実施したところ、SDHI剤に対する耐性菌の発生が広く確認された。

1. 発生の確認経過

令和7年8～10月に、石狩、後志、檜山、胆振、上川、十勝及びオホーツク地方の栽培ほから本病り病葉またはり病花蕾を採取し、病斑部から菌株を得た。これらの菌株について、薬剤添加培地上での生育確認(培地検定)した結果、SDHI剤に対する耐性菌がすべての地方で高頻度に認められた(表1)。

これらの菌株に対する実際の防除効果は未検討であるが、道外において耐性菌と推察される菌株が発生したほ場では、防除効果の低下が確認されている。

2. 防除対策

- (1) 本病を対象とした茎葉散布防除にはSDHI剤の使用を避ける。^{注1)}
- (2) 本病に対する登録農薬はSDHI剤の他ではQoI剤があるが、耐性菌発生リスクが高いことから、QoI剤の使用は1作型につき1回にとどめる。
- (3) SDHI剤及びQoI剤以外の系統の薬剤(ポリオキシシンD亜鉛塩水和剤、オキシリニック酸・有機銅水和剤、銅水和剤)の使用を検討する。
- (4) 隣接して栽培している作型への感染リスクが高いため、収穫後は速やかに残渣をすき込む。

注1)SDHI剤耐性菌に対するSDHI剤セル苗灌注処理の効果については未検討である。

表1 ブロccoli黒すす病菌のSDHI剤耐性菌検定結果

菌株採集地域	培地検定(ピラジフルミド)		
	供試菌株数	耐性菌株数	耐性菌割合(%)
石狩	4	4	100
後志	11	11	100
檜山	22	19	86
胆振	13	13	100
上川	13	13	100
十勝	3	3	100
オホーツク	7	7	100
全道	73	70	96

※ピラジフルミド 100ppm を加用した培地上で生育を示した菌株を耐性菌と判断した。



PDA のみ

ペンチオピラド 100ppm 添加

ピラジフルミド 100ppm 添加

右上:感受性菌(対照)、左上・右下・左下:分離菌1~3